

思い出の写真集～ 姉妹都市交換学生団～

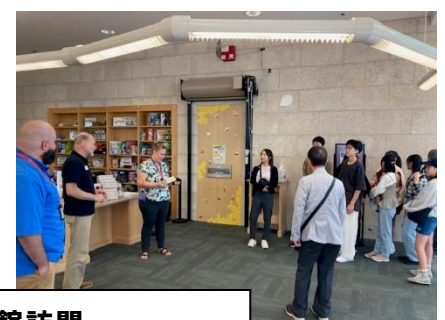
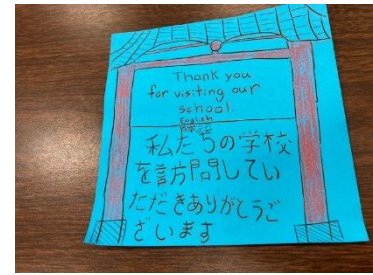


ホストファミリーとの出会い



学校訪問





図書館訪問



MLB 観戦



ロサンゼルス観光



1 はじめに(リーダー報告)

第 37 回姉妹都市交換学生団報告

リーダー 柳町中学校 海沼 香

この度、第 37 回姉妹都市交流学生団として、10 名の生徒とともにアメリカのクリアウォーター市およびロサンゼルス市を訪問しました。合計で 3 回の学習会を通して、出し物や長野・日本の紹介プレゼンテーションの練習を行った生徒の皆さんからは、長野市を代表してその魅力を伝え、さらにアメリカ文化についてもたくさんのことを学んでくるという強い意志が感じられました。また、出発の約 1 週間前の市長表敬訪問の際には、この交流派遣でやりたいことを喜び溢れる表情で伝えていました。

【3 月 20 日 (水)】

第 37 回姉妹都市交換学生団（生徒 10 名、引率 2 名）が長野駅に集まり、出発式を行いました。緊張や不安からか、どこかこわばった表情を浮かべる生徒もいましたが、先生方や保護者の皆様、そして長野市教育委員会の皆様に見送っていただき、少しずつ表情が和らぐ様子が見られました。代表生徒の意気込みにもあったように、この姉妹都市交流を通して多くのことを学び、成長して長野に帰ってくることを決意し、長野駅から出発しました。長野駅、東京駅、浜松町駅と、羽田空港が近づくたびに「これからアメリカに飛び立つのだ」という実感が湧いてきました。フライトの大きな遅延もなく、夜 9 時頃にタンパ空港に到着しました。出発前からメッセージのやり取りを重ねていたホストファミリーと初めて顔を合わせ、安心した様子でそれぞれの家に向かいました。

【3 月 21 日 (木)】

Curwise Middle School への学校訪問初日でした。一度校内に入ると、たくさんの日本国旗と「ようこそ Curwise Middle School へ」と日本語で書かれた文字や私たちの名前を書いてくれた掲示物を見つけ、とても歓迎してくれていることが感じられました。この日は Host Student の参加する授業に同行し、1 日を共に過ごしながらアメリカの中学校を体験することとなりました。この学校では、50 分の授業が 6 コマ、授業間の移動時間が 4 分ずつ、学年ごとに異なる時間に始まる 30 分間のランチタイムというスケジュールで生活をしました。どの授業に参加し、どの時間にランチを食べるのかを確認し、それぞれ 1 時間目の授業の教室へ移動しました。

新型コロナウイルス感染症の流行から廊下にずらりと並んだロッカーはもう使われておらず、生徒が持っているタブレット端末の入ったリュックサックを持って教室を移動していました。例えば、数学の授業では授業前半に先生が主導で問題の解説を行い、後半にはそれぞれのタブレットから自分のペースで問題に取り組んでいました。取り組みきれなかったものが宿題ということでしたが、全員が同じペースで進む一方向の授業ではなく、定められた時間内にどれだけ取り組むのかも生徒自身に委ねられるその学習環境は、主体性を大切にする授業づくりがされているからこそだと感じました。

ランチタイムは、学年ごとに決められた時間に全員がカフェテリアに集まり、ピザやラップサラダなどいくつかのメニューの中から自分の好きなものを選んで取るという方式でした。家から持ってくる生徒もいれば、売店のような場所でおやつなどを買う生徒もいました。ランチタイムの 30 分が終了すると、カフェテリアの職員がマイクで次々と教室へ向

かうようアナウンスしているのも印象的でした。すれ違う多くの生徒たちや、同じ授業に参加した生徒たちが皆優しく声をかけてくれたり、わからないところを手助けしてくれたり、とても温かい雰囲気の中で充実した1日を過ごすことができました。

【3月22日（金）】

Curwise Middle School への学校訪問2日目は、授業の前にカフェテリアで朝食を取りました。ランチと同様に自分で必要なものを選んで食べることができ、私たちが食事をしているときに何人かの現地生徒も食事を取っていました。学校長へのあいさつも済ませ、この日はおよそ2つのグループに分かれて体育や音楽の授業、技術家庭科の授業に参加しました。体育の授業では同じ体育館でバレーボール・バスケットボールがそれぞれ行われていました。いざ授業が始まると、現地生徒が「一緒にやろう」と誘ってくれ、いつの間にか大勢に混ざってプレーをしていました。シュートが決まればハイタッチをして喜び、声を掛け合いながらボールをパスし合い、言語の違いという壁がないかのように同じ競技を楽しむ姿を見ることができました。技術の時間に体験した VR や休み時間に触れ合うことのできたセラピードッグなど、日本の学校では体験できないことに多く触れた2日間になりました。

この日の夜に行われた Sayonara Party には、Host Family だけでなく、Curwise Middle School での Host Student や先生方も来てくださいました。会場の外にいる保護された様々な種類の野鳥を見たり、お互いのことについて話したりしながら時間を過ごし、いよいよ1月ごろから練習を始めた日本文化・学校紹介のプレゼンテーションと歌とダンスの出し物を披露しました。練習の時よりも堂々とした様子で、聞いてくださる方の反応も楽しみながら発表していました。パーティーの後に私の Host Family が「日本にいったら行きたい所や食べたいものができた」と言ってくれ、長野市の中学生として長野や日本の魅力を伝えるという使命を果たすことができたようでした。

【3月23日（土）、24日（日）】

週末はそれぞれ Host Family と時間を過ごしました。遊園地やカヤックなどのアクティビティを楽しんだり、日本食をふるまってあげたり、ビーチに行ってお買い物をしたりと、充実した週末を過ごしました。

【3月25日（月）】

クリアウォーター市アンバーさんと共に、クリアウォーター市を観光して1日を過ごしました。市の Main Library には、世代ごとの本や漫画が置かれているだけでなく、昔のフィルムやレコードをデータにおこせるような機器が置かれているところもあり日本の図書館との違いが多く見られました。その後、バスに乗って野球場へ向かい Spring Training の試合を観戦しました。野球場のスタッフに案内され、試合の前にはグラウンドに立つことができました。目の前を野球選手が走り抜けていくことに驚いていると、球場のアナウンスで長野から来ている私たちを紹介する声が聞こえました。スクリーンを見ると、長野とクリアウォーターを示す世界地図と共に、グラウンド上にいる私たちを映し出してくれていました。クリアウォーター市をあげて歓迎してくださっていることを感じ、とても感動しました。日差しの厳しい中での野球観戦となりましたが、現地の方々の熱気を間近で感じられるよい経験となりました。

【3月26日（火）】

Host Family の皆さんにタンパ空港まで送り届けていただき、ロサンゼルス空港へと出発しました。飛行機の待ち時間などには、Curwise Middle School で出会った生徒や Host Family との思い出ばかりを語る皆さんの様子から、本当に充実した毎日を送ることができたことが伝わってきました。ロサンゼルスではリトルトーキョーにあるホテルに宿泊しました。久々の日本食をいただきながら、安心できる仲間との束の間の休息を楽しみました。

【3月27日（水）】

今日はガイドさんに案内をしていただきながらのロサンゼルス観光でした。ファーマーズマーケットで新鮮なフルーツジュースを味わったり、サンタモニカの海辺で時間を過ごしたりと、楽しい時間を過ごしました。また、宿泊したリトルトーキョーのホテルでは大谷翔平選手の壁画がこの日に完成し、そのお披露目に集まった地元テレビ局にインタビューをされた生徒もあり、とても貴重な経験となりました。

【3月28日（木）、29日（金）】

いよいよ帰国の日となりました。帰りも順調に進み、予定通り長野に到着しました。長野市教育委員会の皆様や保護者の方々にお出迎えいただき、無事の帰国を報告しました。

最後に、このような貴重な機会をくださった長野市および長野市教育委員会に感謝申し上げます。また、副リーダーとして事前の学習会から帰国後まで、さまざまな場面でご尽力いただきました学校教育課の丸山拓磨様をはじめ教育委員会の皆様、これまでの豊富な経験で訪問団をお支えいただいたアルピコ長野トラベルの渡辺浩二様、そして保護者の皆様に心より御礼申し上げます。今回のアメリカ訪問最後の夕飯の際、10人全員で訪問を通して何が一番楽しかったのかをそれぞれ発表し合いました。次々と思い出を語る姿から、アメリカで過ごせたからこそ、またこの10人とだからこそ得ることができた経験や思い出に溢れた10日間だったのだと感じました。「もっと英語を勉強してまたクリアウォーターに来たい」と話す生徒も多く、ぜひ今回の訪問での出会いや経験を糧に、それぞれの場所で活躍していただけることを願っております。

2 団員名簿

令和5年度（第37回）姉妹都市交換学生団

派遣先：クリアウォーター市（アメリカ合衆国フロリダ州）ほか

派遣期間：令和6年3月20日(水)から3月29日(金)まで

派遣人数：中学生10名（男性2名、女性8名）、引率者2名

区分	氏名	カナ	学校名等	役職・学年等
リーダー	海沼 香	カイヌマ カオリ	柳 町 中 学 校	教諭
サブリーダー	丸山 拓磨	マルヤマ タクマ	学 校 教 育 課	指導主事
団 員	谷口 楓	タニグチ カエデ	附 属 長 野 中 学 校	3 学年
団 員	谷口 栳	タニグチ モミジ	附 属 長 野 中 学 校	3 学年
団 員	山田 莉愛	ヤマダ リア	川 中 島 中 学 校	1 学年
団 員	和田 優花	ワダ ユウカ	附 属 長 野 中 学 校	1 学年
団 員	荒井 ふみな	アライ フミナ	文化学園長野中学校	3 学年
団 員	BUI THI MINH PHUONG	ブイ ティ ミン フォン	柳 町 中 学 校	2 学年
団 員	山口 煌志	ヤマグチ オウシ	犀 陵 中 学 校	3 学年
団 員	坂口 実季	サカグチ ミキ	川 中 島 中 学 校	3 学年
団 員	青木 希瑛	アオキ ノエ	市 立 長 野 中 学 校	2 学年
団 員	柳澤 七音	ヤナギサワ ナナト	柳 町 中 学 校	2 学年

3 姉妹都市交換学生派遣事業の概要

姉妹都市交換学生派遣事業の概要

1 姉妹都市の概要

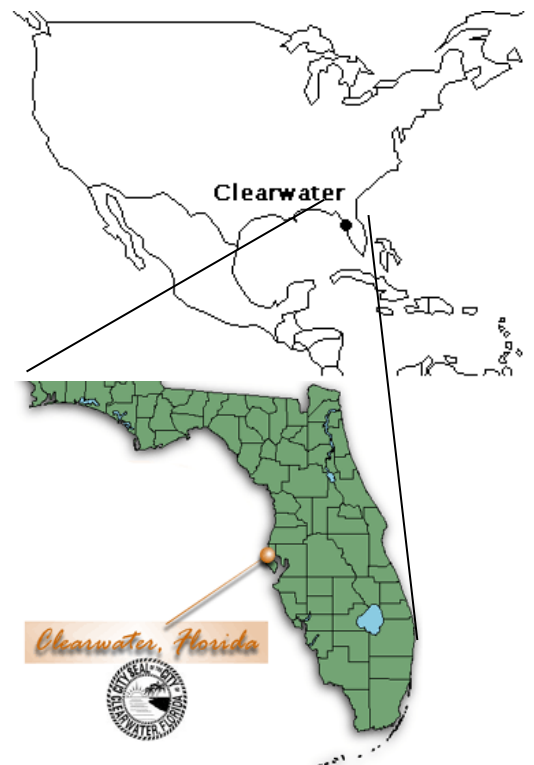
- ①都市名 クリアウォーター市（アメリカ合衆国フロリダ州）
- ②提携年月日 1959(昭和 34)年 3 月 14 日
- ③人口 約 11 万人 ※長野市は約 36.6 万人(R5.11.1 現在)
避寒地のため、冬期間の人口は 2～3 倍になります。
- ④面積 97.7k m² ※長野市は 834.81k m²
- ⑤平均気温 24℃ 亜熱帯気候
- ⑥位置 北緯 28° 西経 83°
フロリダ半島のメキシコ湾に臨んだ観光都市で、タンパ港、タンパ
国際空港から車で 30 分の位置にある。

⑦沿革

温暖な気候のため、老後の安住の地として事業等の引退者が移住して余生を過ごす地として発展してきました。現在では、観光業のほか医療・健康関連産業も主要産業となっており、裁判所などの官公庁が置かれるなど、ピネラス郡でも重要な都市のひとつとなっています。

また、同市は快適で美しい住宅都市として知られ、秋から春にかけてアメリカ・ヨーロッパからの避寒地として、大変にぎわっています。

1940 年から、野球のメジャーリーグ、フィラデルフィア・フィリーズのキャンプ地となっています。



2 姉妹都市提携の理由

気候や風土は異なるものの、両市とも年間を通して多数の観光客が訪れる観光都市であり、水と空気のきれいな自然環境に恵まれた都市であることから、長野市はクリアウォーター市と姉妹都市提携をしました。

3 姉妹都市交流の概要

人的な交流を主体に友好親善を深めており、毎年、交換学生（中・高生）や教師の相互派遣を行っています。

4 交換学生派遣事業の目的

- (1) 長野市立中学校における国際理解推進を図ること
- (2) 姉妹都市との友好親善を図ること

5 交換学生派遣事業の内容

クリアウォーター市滞在時は、一般家庭に家族の一員として迎えられ、ホームステイをしながら受入家族との実生活体験や現地の学校訪問をとおして、風俗、習慣、考え方、国情の相違等を理解し、相互に親睦を深め合っています。

6 派遣事業の今後の日程

(1) 学習会（全3回）

第1回 令和5年12月16日(土) 午後2時から～午後4時まで

第2回 令和6年1月20日(土) 午後2時から～午後4時まで

第3回 令和6年2月17日(土) 午後2時から～午後4時まで

(2) 市長表敬

令和6年3月12日(火)

(3) 渡航

令和6年3月20日(水)から3月29日(金)まで

(4) 各自でホームステイ家庭等へ礼状送付

(5) 報告書原稿の作成

4 第 37 姉妹都市交換学生団の日程

第 37 姉妹都市交換学生団の日程

3 月 20 日（水） — 3 月 29 日（金）

3 月 20 日（水）	11:00 長野駅集合 11:28 長野駅発（あさま614号） 東京駅着 成田エクスプレスにて移動 14:00 羽田空港着 17:35 羽田空港発（デルタ航空DL-296） -----（日付変更線 通過）----- 17:10 アトランタ着（乗継） 19:55 アトランタ発（デルタ航空DL-1457） 21:20 タンパ着 ホストファミリー出迎え	ホームステイ （6泊）
3 月 21 日（木）～25 日（月）	学校・図書館訪問など	
3 月 26 日（火）	各家庭の見送りを受け空港 11:15 タンパ発（デルタ航空DL-1227） 12:44 アトランタ着 14:01 アトランタ発（デルタ航空DL-753） 16:10 ロスアンゼルス着 （ロスアンゼルス泊）	
3 月 27 日（水）	ロスアンゼルス市内観光	
3 月 28 日（木）	10:35 ロスアンゼルス発（デルタ航空DL-007） -----（日付変更線 通過）-----	
3 月 29 日（金）	15:10 羽田着 モノレールにて移動 18:40 東京駅発（あさま625号） 20:24 長野駅着 自由解散	



5 旅の日めくり

3月20日(水) 出発式 柳町中学校 柳澤 七音

アメリカへ旅立つ日の午前10時30分、僕たちは保護者や学校の先生方、教育委員会の方々に見守られながら出発式を行いました。僕を含めた10人の団員はみんなそれぞれ異国へ旅立つことへの不安や期待などから様々な面持ちをしていました。式が終わり集合写真を撮ったりして新幹線に乗り込みました。新幹線では仲間達と窓の外から見える景色を見ながら楽しく話したりしました。

羽田空港に着き、いよいよ飛行機で日本を後にしました。その後、11時間というフライト時間をかけてやっとデトロイト空港に着きました。長時間のフライトによる疲労とともについにアメリカに着いたという嬉しさを感じました。そこから乗り換えを行い、3時間かけてホストファミリー達が待つタンパ空港に到着しました。空港に着くとホストファミリー達がプレートを抱えて盛大に歓迎してくれました。

その後、各自解散になりホストファミリーと一緒に空港から家まで車で移動しました。その間、ホストファミリーはたくさん僕に空港付近やアメリカの生活について話してくれて会話することができたためこれからの生活に期待が募りました。



3月21日(木) 学校訪問 川中島中学校 坂口 実季

今日は、クリアウォーター滞在初日でした。私たちは Carwise Middle School へ訪問させて頂きました。学校では、Host student と私たちが2人1組でペアになり、校舎を案内してくれたり、授業と一緒に受けてりして、1日同じ時間を過ごしました。

学校訪問で私が最も印象に残っていることは、アメリカの生徒たちの明るさ、フレンドリーさです。アメリカの生徒たちは、突然来た日本人に対して、最初から明るく、笑顔で声をかけてくれました。Hello から始まり、「クリアウォーターはどうですか?」「カフェテリアはこっちだよ」など、どんどん話しかけてくれたので、私は緊張することなく、アメリカの学校生活を楽しめました。

また、生徒たちは皆、日本に興味津々でした。「日本は楽しい?」「日本に行きたいです」と言ってくる生徒がたくさんいて、漢字を書けたり、折り紙を折れたりする生徒もいました。また、私は割り箸と筆ペン、『ばかうけ』をお土産として配ったのですが、これが想像以上に人気でした。廊下を歩くとすぐに「Chopsticks please!!」と言ってくる生徒があつまってきました。(写真は、『ばかうけ』を美味しく食べてくれた生徒たちの様子です)

私は今日の経験から、外国の人から日本がどれだけ愛されているかを肌で感じ、その期待に恥じないような日本人の姿であり続けようと思いました。そして、もっと外国の人へ誇れる日本にしていきたい



です。

私たち日本人を温かく迎え入れてくれた Carwise Middle School の皆さん、ありがとうございました。

3月22日（金） 学校訪問2日目&さよならパーティー 文化学園長野中学校 荒井 ふみな

クリアウォーター市に滞在して3目を迎えました。Carwise Middle School への訪問2日目です。たくさんの生徒がフレンドリーに話しかけてきてくれて、とても雰囲気の良い学校です。昨日の訪問に続き、みなさんとまた一緒に写真を撮り、思い出作りをすることができました。2日目は音楽の授業を見学させていただきました。生徒と先生の距離が近く、賑やかな感じの授業が多く見受けられました。とてもフリーな雰囲気があります。2日間の学校訪問を通し、日本の学校との違いをさらに見つけることができ、大変勉強になりました。歓迎して頂き、たくさんの「楽しかったよ」という主旨の手紙を貰って嬉しかったです。日本語で書いてくれている手紙もありました。



学校訪問が終わった後はお世話になったホストファミリーの方々を招いてさよならパーティーを行いました。みんなで準備したプレゼンテーションや歌とダンスを披露し、楽しいパーティーにすることが出来ました。ホストファミリーが私のプレゼンを褒めてくれて嬉しかったです。日本や長野の魅力を知っていただける時間になりました。

3月23日（土） ホストファミリーと自由時間 長野中学校 青木 希瑛

今日はクリアウォーター・マリン水族館に行きました。そこには病気やケガをした海洋動物の救助やリハビリのための施設でした。

イルカに触れる企画があり、それは1グループ1人までだったのでホストファミリーは私に触らせてくれました。イルカの見目はつるつるしているのに触ってみたら意外とざらざらしていてびっくりしました。餌をあげた時は大きく口を開けて待っていてかわいかったです。また、水族館にはプラス



チックなどの海に落ちていたごみで作った海洋動物の模型みたいなものがありました。大量のペットボトルからできたクラゲや中にはゴム製のブーツがある模型もあり、びっくりしました。

お昼は「SALT WATER CAFE」というホストファミリー行きつけのお店に行きました。そこは魚介類のお店で私はエビ焼いたものを食べました。ホストマザーからエビのしっぽの外し方を教えてもらいレモンをかけてチリソースをつけて食べました。少しピリッと辛くてとてもおいしかったです。お昼の後はビーチ沿いにあるお店で買い物をしました。すごく大きなお店でかわいいtシャツを見つけたので買ったら、たまたまエマとコラと買ったtシャツの色が同じでホストマザーに「仲いいね」と言われました。本当

に別々に選んでいたからびっくりだったし、うれしかったです。

夕ご飯にはホストファミリーおすすめのバーガー屋さんに行きました。自分がマックが好きなことを伝えると「マックも好きだけどここが一番おいしくて好きだよ」と言っていたので楽しみに言ったらほんとにおいしくて、シンプルなチーズバーガーなのに感動しました。夜はみんなでソファに並んでテイラースウィフトのライブ映像を見ました。私の隣には犬のタッカーが来て、タッカーは私の近くでリラックスしながら寝ていたのがとてもかわいかったです。

3月24日（日） ホストファミリーとの自由時間 柳町中学校 BUI THI MINH PHUONG

今日、ホストファミリーと自由時間2日目です。

午前中、スーパーに行って、調理材料と日本へのお土産を買いました。お昼にベトナムの料理「フォー」を作って、ホストファミリーはすごく喜んでくれました。

午後、クリアウォータービーチに行って、泳いだり、砂のお城を作りました。海に入ると最初は冷たく感じましたが、だんだん慣れました。ビーチの周辺に多くのお店があって、Tシャツ、キーホルダー、帽子などを買いました。

夜にホストファミリーの娘さんと3カ国の学校、文化、生活について話しました。彼女にベトナムの伝統衣装「アオザイ」を着てもらって、たくさん写真を撮りました。

今日は、ホストファミリーと楽しく1日を過ごしました。



3月25日（月） クリアウォーター市観光とホームステイ最終日 川中島中学校 山田 莉愛

今日は私立図書館と野球の試合観戦に行きました。

図書館では日本の物語が英語に翻訳されている本もあって驚きました。野球観戦ではみんなが盛り上がっていて、一体感のある雰囲気を楽しめました。天気がとても良くてクリアウォーター最終日も綺麗な写真が撮れてよかったです。

ホストファミリーとの最後の夕飯は、サンドイッチでした。ホストシスターのアディーとお店に行き、オリジナルのサンドイッチを作ってもらえるということで、沢山の具材がある中、自分で選び楽しく作れました。とてもおいしかったのでまた食べたいです。家に帰って、この5日間で経験して楽しかったこと、びっくりしたこと、実際にアメリカに来たことで初めて気づけたことなどたくさん話すことができました。長野市の説明や、持って行った日本のお菓子、折り紙、パンフレットを気に入ってくれたので嬉しかったです。

寝る前に、ホストファミリーからプレゼントをもらいました。開けてみると写真が入ったフォトフレームで、一緒に過ごした5日間の思い出が1枚の写真にまとめられていました。ホストファミリーと多くの楽しい思い出を作ることができてよかったです。



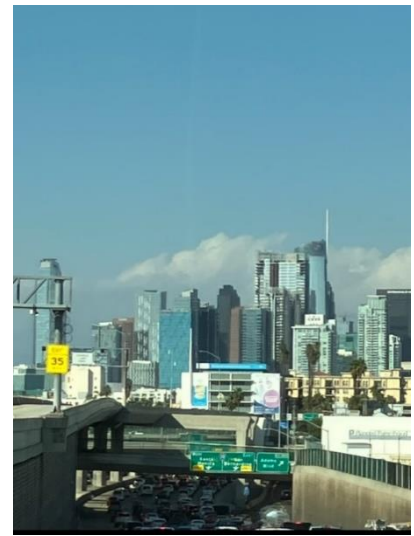
3月26日（火） タンパ空港からロスアンゼルス空港 信州大学附属長野中学校 和田 優花

楽しかった6日間のホームステイが終わり、お世話になったホストファミリーと、クリアウォーター市に別れを告げてロスアンゼルスへ出発しました。一緒に過ごしたホストファミリーと別れるのは寂しさを感じましたが、お世話になった6日分の感謝をしっかりと伝えることができました。

タンパ空港からロスアンゼルス空港まで、乗り換えを合わせて6時間ほどかかり、アメリカの広大さを実感しました。

ロスアンゼルス空港から、リトルトーキョー内のホテルに向かうまでの道のりは、フロリダで見た景色とはまた違って面白かったです。地区ごとに住む人種が異なるため、街並みも地区ごとにかなり雰囲気が変わりとても驚きました。また、映画に出てくる景色をたくさん見ることができ、さすがはロスアンゼルスだなと思いました。

ホテルに着いた後、リトルトーキョーを散策しました。リトルトーキョーでは、日本のレストランやグッズショップなどがあり、私は紀伊国屋で好きな小説の英語版を買いました。夕食には久しぶりの和食を楽しみ、メンバーとホームステイ中のことを話したりしました。夜は、残りの3日間と今までの6日間を想いながらゆっくり休むことができました。



3月27日（水） ロスアンゼルス観光② 信州大学附属長野中学校 谷口 椋

まず、皆でファーマーズマーケットへ行きました。昔使われていたオシャレなガソリンスタンド、アメリカらしいお菓子のお店など見るもの全てに興味をそそられました。トレーダージョーズというお店では、様々なお菓子や調味料、バッグなどがあり、楽しく買い物ことができました。次に、ビーチへ向かいました。向かう途中、所々カラフルな落書きがされている建物があり、日本では見られない光景に驚きましたが、どれも芸術性が高く面白かったです。またアメリカの良さを見つけたと思いました。ビーチのすぐそばのレストランでお昼ご飯を食べ、ルート66の看板の前やビーチで写真を撮るなどして楽しみました。そしてついにハリウッドへ向かいました。ハリウッドまでも時間がかかり、アメリカの広さを再び感じました。チャイニーズシアターでは、世界的に有名な女優・俳優さんの手形や足形を見ることができ、とても嬉しかったのと同時に少し贅沢な気持ちになりました。ロスアンゼルス観光は驚くことばかりで、貴重な体験となりました。

3月28日（木） ロサンゼルス発 収集大学附属長野中学校 谷口 楓

ホテルで朝早く起き、最後のロサンゼルス街並みの風景をバスの窓から見ながらお弁当を食べ、ロサンゼルス空港へ向かいました。毎日新しいことばかりで目が輝いていた、充実したアメリカでの日々が終わり、大好きになったアメリカを旅立ってしまうことが本当にさみしくて悲しかったです。同時に自

分の家がある日本へ帰れることに安心したような気持ちもありました。また、約 10 日間日本を離れていたため、アメリカでの旅の後に日本がどう見えるか、自分がどんなふうに成長したのかを感じるかなどが楽しみでした。

飛行機に乗り、ロサンゼルスを旅立った時は、「絶対にもう一度、アメリカに行こう!」と強く思っていました。そして今回の旅のことをいろいろ思いかえして、旅立つことの悲しさだけではなく、充実な時間を過ごすことができて後悔のない晴れ晴れとすっきりした気持ちでいっぱいでした。

日本へ着いたのは本当にあっという間でした。東京のようすが飛行機の窓から見えたとき、アメリカの風景と雰囲気とかが全く違い、驚き、たった 10 日間ほどぶりなのに懐かしく感じました。



3 月 29 日（金） 日本到着 犀陵中学校 山口 煌志

10 日間のアメリカ訪問はあっという間に終わってしまっ、「楽しかった」「また行きたい」という思いが強く残りました。

ロサンゼルスから羽田までの約 12 時間、アメリカでの出来事を、写真を見返して振り返りながら帰ってきました。初めにタンパに到着し、ホストファミリーに迎えてもらったときは、手書きの日本語で色々書かれた歓迎ボードで迎えてもらい、とても嬉しい気持ちになったことを思い出しました。しかし、気づいたらもうお別れの日になってしまい辛かったです。クリアウォーターで訪れた学校も同じで、日本の人を迎え入れるというおもてなしの心がとても伝わってきました。その様なことを考えながら羽田へ到着すると、外国の人を迎え入れる日本人達の姿が目に入りました。10 日前の自分達と、逆の立場の人達です。手に持っている歓迎ボードが全て印刷物であることに気が付き、手書きの暖かさを感じました。

長野駅では、それぞれ家族が待っていてくれて、10 日間ぶりの再会となりました。到着の挨拶をした後、皆で写真撮影をして解散となりました。

たった 10 日間でしたが、様々な経験ができました。この経験を、これから先の将来に生かしていけたらなと思っています。今回私たちにこのような貴重な機会を与えていただき、本当にありがとうございました。



6 訪問を通して学んだこと

訪問を通して学んだこと

柳町中学校 柳澤 七音

僕は今回のアメリカへの訪問を通して学んだことが二つあります。

一つ目は文化・観光についてです。ホストファミリーは僕と仲を深めるために一緒に色々な所へ連れて行ってもらいました。中でも一番印象に残っているのはゴルフ場とビーチに行ったことです。まず初めにゴルフ場へ行きました。日本ではゴルフと触れ合う機会がなかったので今回が初めてで難しかったけれどホストファミリーと良い思い出を作ることができました。またそれと同時にゴルフ場にいる人数の多さに驚きました。またゴルフ場に併設されているレストランでは初対面の客同士が知り合いかのようには話していて日本との国民性の違いを感じました。また一番驚いたのは客と店員も友達のように話していたのです。日本ではあまり見ない光景だったのでとても新鮮で日本の接客態度とは価値観から違うのだと思いました。次にクリアウォータービーチへ行きました。海へ入ることはなくビーチを散歩してからプールに入っただけでしたがビーチは白い砂に緑に近い色をした海が合って何度でも見たいと思えるほどきれいでした。またそんなきれいなビーチでは様々な人種の観光客がおり、長野市では見れない海の観光資源の役割を全うしていました。しかし僕にとって新鮮だったのはビーチで結婚式の準備がされており観光資源の役割を超えた活用の仕方をしていたことでした。長野市民の僕たちにとって山が身近な存在なのと同じようにクリアウォーターの人たちにはこのビーチがとても意味のある重要な場所ということが分かりました。

ホストファミリーと過ごせる最後の日にはホストファミリーの友達も一緒に食卓を囲んで夕食を楽しみました。また家族の写真を見せ合ったりしてその日の夜を過ごしました。いよいよホストファミリーとお別れをする日が来ました。その日は平日だったので空港まではお父さんしか来れませんでしたがお父さん以外とはすでに家でお別れしてまた会う約束もしました。お父さんには家族宛てに簡単な手紙を渡して握手をしてお別れしました。ホストファミリーを通して色々な経験ができたのでこの一家と過ごせて本当に良かったと思えました

二つ目は学校についてです。僕たちはカーワイズミドルスクールというところへ行き、初日からものすごく歓迎してもらえました。また一番印象に残っているのはたったの二日間でたくさんの友達ができたことです。ほとんどがアメリカの生徒から話しかけてきてくれて仲良くなり、積極性があり、見習うべきところだと思いました。また一番仲良くなったグループとはアメリカの生徒が簡単な単語を使い、翻訳機能を駆使してくれたので日本の友達と話すのと同じくらい気軽に冗談を言い合えて笑いあえたので本当に楽しかったです。また体育の授業ではバスケットに誘ってもらったりランチタイムでは仲良くなったグループと一緒に昼食を食べたりしたりしてアメリカの生徒との交流が盛んに行えて日本と交友関係の感覚はあまり変わりませんでした。



実際にアメリカの中学校の授業を受けてみて感じたのは日本に比べて基本的に生徒が自由なことです。みんなとは反対の方向を向いて一人で自習していたり、パソコンをずっといじっていたりしている子をよく見かけました。しかし先生は特に気にすることなく授業をしていて日本との違いに少し戸惑いました。

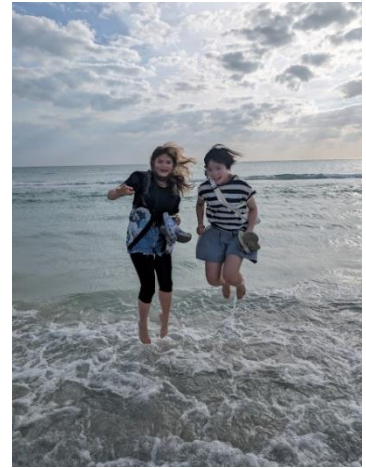
そんなアメリカの学校でしたがついに最後の日、チアダンスを観たり演劇を観たりと最後の日を堪能して最後はお世話になった先生に挨拶をして一番仲が良くなった子と僕の唇が内出血するほどの強いハグをしてカーワイズミドルスクールを後にしました。本当に楽しくあっという間でしたがまたカーワイズミドルスクールの子たちとまた再会して話をしたいです。

最後に今回の訪問を通して僕はホストファミリーや中学校の生徒などとたくさん交流ができました。英語での会話にも積極的に挑戦できて僕にとって実りのある 10 日間でした。教育委員会の方々、先生方、家族にも感謝したいです。そして今回一緒に思い出を作って色々な経験をした 9 人の仲間達、本当に楽しかった！ありがとう！

私は今回の姉妹都市交換学生事業を通し、自分の視野が大きく広がり、新たな価値観を得ることができました。そんな初めてで刺激的な毎日の中で、特に印象に残ったのは、アメリカの多国籍社会です。

アメリカ滞在7～9日目に訪れたロサンゼルス。そこは、日本では考えられないくらい、様々な国籍、人種の人が暮らしていました。ロサンゼルスは、国籍や人種、所得によって住むエリアが分かれています。そのため、少し街を移動すると、一気に雰囲気が変わります。

比較的所得が高い人が集まっているロサンゼルスを中心地、いわゆるダウンタウンは、高層ビルなどの高い建物が並び、ガラス張りだったり、現代アートのような形をしていたりと、洗練された街並みになっています。そして、車があちこちを走り回り、人々はいつも忙しそうでした。



一方、少し中心地から外れると、だんだんと建物が低くなっていき、壁にはスプレーアートのような落書きが多くみられるようになりました。そこは、比較的所得が低い人が暮らしている地域でした。ガイドさんによると、その地域の大きな特徴として、「家の窓」が挙げられるそうです。確かに、低所得者層が住む家の窓をよく見ると、どれも鉄格子がつけられていました。理由は、防犯対策のためだそうです。このような地域では、窃盗や暴力などが頻発しており、家の窓には鉄格子が必須だそうです。

このように、同じ街の中でも少し地域が違うだけで雰囲気が変わって、面白いなと思いました。それと同時に、住む場所が変わることでより人種や所得の間の差が出てきてしまいそうだなとも感じました。また、私のホストファミリーのジャクソン家のお母さん、ジェニファーは、低所得者の家庭に生まれた子供たちの教育を専門に行う仕事をしていました。そのような子供たちは、どうしても教育が十分に受けられない状況にあります。そんな子供たちに世の中のマナーや道徳を教えるのがジェニファーの仕事だそうです。ジェニファーは、「低所得者が集まる地域で窃盗などが多いのは、教育が充分でないことも一つの原因。」だと話していました。私はこの現実を聞き、ただ悪いところに目を向けるのではなく、そこに至った原因や社会の仕組みを知ることが必要なのだなと感じました。またジェニファーは、「今、私たちが普通に学校に行けていることは幸せなことで、感謝すべき」だとも話していました。私は今までこのような現状があることは知っていましたが、テレビや本で見る、くらいの遠い世界のことでした。しかし、実際に目にしたことで、すぐ近くに社会的課題はあることを感じ、より理解が深まりました。正直、怖いと感じる所もありましたが、実際に肌で感じることで分かることがあるのだなと思いました。

このような貴重な経験ができ、多くのことを知ることができたのは、周りの方たちのおかげです。私のぎこちない英語に耳を傾け、美味しい料理をたくさん食べさせてくれて、素晴らしい景色を見せてくれたジャクソン家の皆さん、私を受け入れてくれて本当にありがとうございました。また、引率して頂いた海沼先生、丸山先生、渡辺さん、たくさん笑いあった仲間たち、支えてくれた両親にも感謝します。私はこの経験から、生で、自分の目で見て感じることの大切さを知りました。実際、渡米前は、テレビや本で見るのと現地に行くのとあまり違いがないと思っていましたが、これが終わったあとの私の考えは180度変わりました。これからは、画面や机に向かっているだけでなく、もっと行動に移し、どんどん自分の視野を広げていきたいです。そして、前述のような格差がない、よりよい社会に貢献できるような人になりたいです。

一生の思い出

文化学園長野中学校 荒井 ふみな

今回、私は姉妹都市交換学生団の一員として、アメリカのクリアウォーター市を訪問させていただきました。初めての海外で、行く前は英語を使って上手くコミュニケーションが取れるか、文化の違いに自分自身がうまく対応できるかなど色々と不安なことばかりでした。しかしそのような不安は実際に行ってみるとすぐに解消され、今となっては毎日が充実していた10日間だったと感じています。

その中でも思い出として記憶に残ったことが3つあります。

1つ目は、ホームステイです。6日間という短い期間でしたが、ホームステイを経験させていただきました。初日はどう話せばよいか戸惑い、ホストファミリーとの会話にもなかなかついていくことができず、自分の気持ちを英語で伝える難しさを実感しました。しかし、ホストファミリーの方から積極的に話しかけてくれたので、次第に私の緊張もほぐれていきました。それに伴い、段々と英語を使って自分

から喋れるようになりました。言いたいことがうまく伝わらない時でも、私のつたない英語やジェスチャーを読み取り、気持ちを分かろうとしてくれたので、とても嬉しかったです。しっかりとした英文でなくても、会話をしようという気持ちさえあればコミュニケーションがとれるということが分かりました。それからは、ホストファミリーと一緒に日本の映画を見たり、折り紙を折ったりしてさらに交流を深めました。さらに、一緒にお出かけにもたくさん連れて行って貰いました。夕日がきれいなビーチに行きました。



また違う日には、ビーチで貝殻集めもしました。貝殻はお土産として持ち帰ってきています。海や砂がキラキラと綺麗に輝いていて、とても美しい景色で非常に印象に残りました。またディズニーワールドにも閉園の時間まで一緒にいて1日を過ごしました。お城の花火がとても素敵でした。

このようにホストファミリーと一緒に過ごすことのできたどの時間も私にとっては、かけがえのない貴重で思い出深い時間となりました。一生忘れないと思います。

2つ目は、アメリカの大きさです。アメリカは、日本のサイズよりすべてにおいて大きく、スケールの違いに驚きました。一步、外に出てみると道路やスーパーマーケットなど、日本よりも何倍もの広さで見えて飽きない街並みでした。他の州へ行くにも飛行機で何時間も移動したり、国内にもまた時差があったりと、その土地の広さに驚きました。食事の面でも量が日本に比べて多く、チキンやポテトといったものも毎日のように食べました。今まで知らなかった日本とアメリカの違いを新たにたくさん発見することができました。

3つ目は、一緒にアメリカ訪問した仲間と共に野球の観戦やロスアンゼルスを観光したことです。アメリカでしか経験できないことをみんなと一緒に共有でき、渡航前よりも仲が深まった気がします。先生方とも何気ない会話を通じて交流を深め、短い間でしたが本当に楽しかったです。最終日が近づくにつれて、日本に帰りたくないなという気持ちがうまれました。

このアメリカ訪問を通し、文化の違いを自分の目でみて肌で感じることの大切さを学ぶと共に異文化への興味、関心がさらに湧き、もっと教養を広げていきたいと思いました。そして今よりもっと英語力を上げ、また再びアメリカに行きたいという思いが強くなりました。

今回の訪問にあたり支えて下さったすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました!!

私は今回の姉妹都市交換学生としてクリアウォーター市へ行くことができ、本当に良かったと思っています。アメリカは驚きばかりの場所でした。私は日本に帰ってきたとたん「今すぐにでも向こう（アメリカ）に帰りたい！」と思うほど楽しい時間ばかりでした。

私がこのように感じたのにはいくつかの大切な思い出を作ることができたからです。

まず一つ目はホストファミリーと過ごした時間です。

私は英語が好きだけど会話をするのは得意じゃありませんでした。空港からの帰り道ホストファミリーはたくさん話しかけてくれました。私もそれにこたえようとしゃべろうとするのに頭が混乱して言葉が出てきませんでした。

ですがホストファミリーは何度も話しかけてくれて、私はアメリカについて初めて英語を話しました。その時ホストファミリーがうれしそうな顔をしてくれたのを覚えています。私のホストファミリーはホストファザー、ホ



ストマザー、2人のホストシスター、それと犬のタッカーと猫のマディー、ポゴナスという爬虫類を飼っていました。私は動物がとても好きなので、一緒にいるだけで本当に安心することができたしホストファミリーとも動物を通してコミュニケーションをとることができました。ホストファミリーの家について2日目の夜はホームパーティーをしました。そこにはホストファミリーの親戚のみんなが来ました。みんなD集まってご飯食べたり話したり、みんな私を温かく迎え入れてくれました。ホストマザーの方のおじいちゃん、おばあちゃんとは会う機会が多く私にいつも笑顔でまた会えてうれしいよと言ってくれました。お別れの日にはわざわざ家まで来てプレゼントをくれました。一緒に入っていた手紙には日本語で「さようなら、会えて嬉しいです。」と書いてありました。日本語で書いてくれていることが本当にびっくりしたしうれしかったです。

二つ目は私の夢である世界中に友達を作ることの第一歩を進めたことです。ホストシスターとは年齢が近くとても話しやすかったです。また一緒に学校を回って案内をしてくれたマヤとリアムとも仲良くなれました。クラスで同じグループになった子もたくさん話しかけてくれて、2日間だけの学校訪問だったけど廊下ですれ違うたびに手を振って「Hi Noe!!」とあいさつをしてくれました。

今回紹介したのは楽しかったことや嬉しかったことなどですが、逆に怖かったこともたくさんありました。だけど今ある思い出の感想は「楽しかった！」の一言です。

「次は自分の力でアメリカへ行き今回お世話になった方々に自分の口からお礼を言いたい」という目標ができました。

最後に、今回はこのような機会を与えてくださり、安全な旅を送れるよう協力してくださった海沼先生、丸山さん、渡辺さん、家族のみんな、そしてホストファミリーのみんな本当にありがとうございました。また一緒に行ったみんな！みんなと出会えて本当に良かったし一緒に行ったのがみんなで本当に嬉しいです。特に女子のみんなは夜にみんなが集まって話してたくさん笑ってみんなのおかげで楽しく10日間を送ることができました。本当にありがとう。

忘れられない思い出

柳町中学校 BUI THI MINH PHUONG

私は今回姉妹都市交換学生団の一員として、クリアウォーター市を訪問させていただきました。この10日間にたくさん経験と思い出ができて、一日一日を大切に過ごしてきました。特に心に印象を残っていることを報告します。

私はベトナム人なのでアメリカ旅行はビザが必要です。そのことをすごく心配しました、ビザを取らなかったらこのプログラムにも参加できなくなります。そして、ビザを無事に取得して参加することができました。15時間も飛行機に乗っていましたが、とても興奮していたので疲れませんでした。ホストファミリーの家に到着したのは10時半頃でしたが、家族のみんなが待っていてくれて、一緒においしい食事を食べました。

アメリカの学生の勉強スケジュールは年末テストによって決まります。たとえば、テストの得点が高ければ、より高いレベルのクラスで勉強することになりますし、その逆も同様です。そのため、勉強スケジュールは人それぞれ異なります。黒板を使わずプラスチック板みたいものを使っています。学校ではインターネットに接続できるので、Google 翻訳を使用できました。日本とは異なり、アメリカとベトナムの数学の授業では電卓を使えます。アメリカ人は本当にフレンドリーで、男女関係なくみんな話しかけてくれます。学校でベトナム人の友達に会い、英語でのコミュニケーションをととても助けてくれました。皆さんからたくさんのお手紙をもらってとても感動しました。

家族のホストの家は Tarpon Springs にあります。ギリシャ文化と工芸品店で有名です。私が調べると、ターボン スプリングスは他のアメリカの都市よりもギリシャ系アメリカ人の割合が高いです。ここで土産をたくさん買いました。(かなり安い笑笑)。

アメリカの食べ物は日本の食べ物の2倍大きいです。残ったものはお持ち帰りできるのには驚きました。食事中、ウェイターは食べ物はどうですかとおいしいかどうかを尋ねます。ホストファミリーの家で朝食を作りました。私は日本食の作り方がわからないのでカップラーメンなどを持って行き、朝食に作りました。でも麺の量がかなり少なかったのでホストファミリーはお腹が空いてしまいました((笑))。

カリフォルニアでの3日間で一番幸せを感じたのは、帰国前の最後の夕食でした。みんなで思い出を語り合いました。その瞬間、時間が経つのがとても早く感じました。明日は日本に帰らなければなりません。そう思うと少し寂しい気持ちにもなりました。

このような機会を与えてくださった保護者の皆様、長野市教育委員会の皆様に感謝します。私を受け入れてくれて、素敵な思い出をくれたホストファミリーに感謝します。そして、一緒に渡航した9人の仲間たち、丸山先生、海沼先生、渡辺さん本当にありがとうございました。

この経験で学んだ国際的な視野を今後の人生に活かしていきたいと思います。



私は小さいときから英語が大好きで、アメリカに行けることが決まった時からとても楽しみにしていました。自分の英語が通用するのか、どんな人が住んでいるのか、知りたいことが沢山ありました。その中でも私が特に印象に残ったことは三つあります。

一つ目は生活や文化の違いです。一番驚いたことは、食べ物をそのまま捨てることです。お腹がいっぱいになった時や、苦手な食べ物があるとき、食べられる人に食べてもらったり、時間を空けて食べたりすることをせず、何のためらいもなくポイッと捨てるのを見たときは衝撃を受けました。アメリカは一つ一つのお皿に乗っている食べ物の量が多く、残った食べ物を捨てることを気にしないのかなと思いました。ホストファミリーのために持参したおせんべいが、ゴミ箱にそのまま捨てられているのを見たときは悲しかったです。ホームステイ中の朝食は、パンケーキ、ワッフル、ベーコンなど簡単に済ませ、夕食はカウンターに沢山の料理が乗っていて、自分で好きなものを取っていくバイキング形式で、自分の欲しいものを食べられました。私のホストファミリーは餃子が好きなのか、毎日出てきました（笑）自分の好きなものを取って食べられるのはいいなと思ったけど、好きなものだけを取っていくので、和食のようにバランスよく食べられないなと思いました。日本は食べ物を残さないことで、作ってくれた人、生き物たちに感謝を示します。そして、食べられないものがあるときは、食べられる人に渡すか、周りにわからないように捨てる等、気遣いができるのが日本人のいいところだと思いました。

二つ目はコミュニケーションです。学校に訪問したとき、私に沢山話しかけてくれたり、長野のことを知ろうとしてくれたり、クリアウォーター市のこと、自分の好きなことを教えてくれたりしてくれました。私の長い話も興味深そうに、楽しそうに聞いてくれて嬉しかったです。自分が満足するまで、英語をいっぱい話せてとても楽しかったです。お店の店員さんは、フレンドリーに「どこから来たの?」「今日の調子はどう?」「いい一日を!」と声をかけてくれました。当たり前のように私を受け入れてくれているのを感じ、心が温くなり、どこでも笑顔でコミュニケーションを取ることができました。その他、レモネードを道端で売っている女の子たちが居ました。テイラー・スウィフトのコンサートのチケットを買うことが目標だそうです。たくさんの人が買っていてにぎわっていました。大人たちは「頑張ってね」と声をかけていて、素敵だなと思いました。

三つ目は、日本のキャラクターはとても人気だけど、日本発祥だと知らない人が多いということです。街を歩いていると、キティちゃんや鬼滅の刃、ドラゴンボールなどをたくさん見かけました。ホストファミリーに「キティちゃんなどの日本のキャラクターはアメリカでも人気なんだね!」と話すと、それらが日本のキャラクターであることにとても驚いていました。学校訪問でも同様に伝えるとホストファミリーと同じように驚いていました。

このアメリカ訪問で沢山のことを学べました。実際に10日間過ごしてアメリカには優しくて温かい人が沢山いて、長野と同じように自然が沢山ある暖かくて過ごしやすい、素敵な場所だということを肌で感じることができました。私は、そこに住んでいる人と関わって、クリアウォーター市が大好きになりました。これからも沢山の人とコミュニケーションを取れるように英語を勉強していきたいです。

最後に支えてくださった皆さま、家族、そして9人の団員のみんな、本当にありがとうございました!!!



アメリカ訪問が決まり、楽しみに思う反面、不安に思うこともありました。英語は好きではあっても特別得意というわけではないので、私の英語力で英語だけの世界を乗り切れるのかとても不安に思っていました。しかしそんな不安は杞憂に終わり、私は英語オンリーの世界を存分に楽しんでくることができました。10日間という短い期間でしたが、今回の姉妹都市訪問で私は数えきれないほど多くのことを学んできました。特に私の印象に残り、私を成長させてくれたことが3つあります。

1つ目はホームステイです。それは私が一番楽しみに思っていて一番不安に思っていたことでした。長い長い飛行機での旅を終え疲れ切っていた私は、空港まで迎えに来て下さった家族とあまり話すことができませんでした。車内でも沈黙が続き、話したいことは沢山あっても「単語や文法は間違っていないか」と不安に思っていたり、自分から話すことができず、結局その日はほとんど話さずに終わってしまいました。しかし翌朝学校へ送ってくれた時、少し話すことができました。文法を間違えてしまったり単語が出てこなくて、つかえてしまったりと、すらすらと話すことはできませんでしたが、ホストマザーが助け舟を出してくれたり、私が言いたいことを理解しようとしてくれるのが分かり、「緊張しすぎなくていいんだ」と吹っ切ることができました。その後はたくさん話すことができるようになりました。



ホストファミリーと過ごす週末の2日間では、クリアウォーターを離れフロリダ半島の東海岸オーランドへ行きました。1日目は、ケネディスペースセンターに、2日目はディズニーワールドに連れて行ってもらいました。ケネディスペースセンターは、いつかアメリカに行った時には絶対に行きたいとずっと思っていた所でした。夢が現実になり、本当に素晴らしい思い出になりました。ホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。この二日間でホストファミリーとの仲が一気に縮まりました。ホームステイ中「えっシャワー毎日浴びないの!!」「土足でベッド入るの!!」と知ってはいましたが、実際にアメリカの暮らしを目の当たりにして驚いたことが沢山ありました。アメリカの普段の生活を肌で感じてくることができたのがこのホームステイでの一番の成果です。

2つ目は学校訪問です。不安な気持ちで教室へ向かうと、ペアのベラが笑顔で歓迎してくれました。1日目は学校案内をしてもらった後に、授業を一緒に受けました。アメリカの授業はとても自由な雰囲気、各自が自分の進度に合わせて学習を進めていました。中には絵を描いていた、お菓子を食べていたりする人がいて、その自由さに驚きました。廊下を歩いていると色々な人が「Hello!」と声をかけてきてくれて、皆フレンドリーでアメリカの中学生はすごいなと思いました。アメリカの中学校は中学生のうちから、自分で考え、行動する力を大切にしていました。日本では、協調性や団体行動などを大切にする考え方がされています。どちらの力も大切なことだと思いました。

3つ目は文化の違いです。アメリカ滞在中に常に思っていたことが、「スケールが日本と全然違う!」ということです。道幅は日本の5倍で、ドリンクやピザの大きさも日本の3倍ぐらいありました。また、アメリカの人は店の店員さんや、知らない人などと、友達のようにおしゃべりをしていて、おおらかでフレンドリーなところも日本と少し違うなと思いました。

今回の姉妹都市訪問で学んだことは、「コミュニケーションの難しさと楽しさ」「文化や普通の違い」「長

野や日本の良さ」です。大好きな英語を使って、自分の英語力で生活できた日々は私の大きな自信に繋がりました。言語に関係なく、人と話すときに大切なことは、笑顔と話したいという気持ちだということ学びました。「文化や普通の違い」を見てきたことで、私の視野が一気に広がりました。これから物事を考えるときに生かしていきたいです。また、アメリカで雄大で美しい自然を見てきました。帰国後に改めて山々に囲まれた長野の自然の美しさに気づくことができました。

今回の姉妹都市訪問は私を大きく成長させてくれて、最高の思い出になりました。今回学んだことは私の大きな糧になりました。最後に、私にこのような機会をくださり支えてくださった、長野市職員の皆様、楽しく安全な旅になるよう尽力してくださった、海沼リーダー、丸山サブリーダー、渡辺さん、そして、9人の仲間、本当にありがとうございました。とても楽しい旅でした。

アメリカ滞在中の日々は新たな発見と学びの連続でした。アメリカ訪問という貴重な経験から学んだことは数えきれないほどありますが、大きくまとめるとアメリカにも日本にもそれぞれの良さがあるということです。当たり前ようですが、アメリカの良さを沢山見つけるのとともに日本の良さも再確認できました。

まず、アメリカは日本よりも自由だと感じる事が多く、特に感じたのは学校訪問でした。いくつかの授業がありますが、生徒はそれぞれ自分の受ける授業の教室へ毎時間移動します。日本の中学校のように、クラスメイトと共に移動し、授業を受けるのとは違っていました。学校がとても広かったこともあり、それぞれの授業の場所が全く分からず次の教室への移動に困ることが多かったのを覚えています。初めての環境だったので、ホストステューデントの子が案内してくれたり、説明してくれたりしたためとても助かったのです



が、自分で自立する大切さを感じました。他にも授業は、皆での始まりの挨拶がなく、授業中お菓子を食べている生徒がいました。日本の中学校の当たり前とは大きく違っていたため驚きでいっぱいでした。次に、アメリカには積極的な人が多いということです。廊下や教室で沢山の生徒と会うたびに、彼らの積極性や好奇心を感じました。休み時間の教室の移動中も授業中でも、カフェテリアでも、多くの生徒がどんどん話しかけてくれました。日本のことを興味津々に聞いてくる子や英語翻訳の機能を使って日本語で会話しようとしてくれる子、日本のアニメの話をしてくれる子など、日本に興味があるのだとわかり嬉しかったです。他にもほとんどの生徒たちが目を合わせて笑顔で手を振ってくれたり、名前さえ聞いていないのに写真を一緒に競い合うようにして撮ろうとしてくれる子がいたり、学校訪問中私はほとんどずっと笑顔だったような気がします。

最後に、どんなこともアメリカは大きいということです。食べ物・飲み物のサイズ、学校の大きさ、道路の広さなど何を比べても日本よりも大きいことがほとんどでした。お店で頼むアイスやご飯もボーリュームがあるのですが、途中から面白いと感じるようになりました。大きくて嬉しいと思う時もあれば、日本と同じくらいの大きさがいいなと思うこともありました。

主に印象に残ったのはこれらの三つですが、まだまだあげればきりがありません。三つとも共通して、日本とは全く違うアメリカの良さですが、この訪問を通してどちらの方がいいというわけでもなく、どちらもいいと実感できたことが嬉しいです。そして、このような沢山の学びを得て素晴らしい経験ができ、一生に残る大切な思い出となったのは海沼先生や丸山先生、渡辺さん、10人の仲間をはじめとした多くの方々のおかげです。本当に感謝でいっぱいです。ありがとうございました！英語の勉強も頑張り、いつかまた一人でホストファミリーに会いに行きたいです。

私は、今回の姉妹都市交換学生派遣事業で、素晴らしく充実した経験をしました。一生忘れない大切な思い出ができ、新しいことを多く学ぶことができました。最初はもちろん少し不安な気持ちはありましたが、前から外国で友達を作ることや異文化に関わることに大きな憧れを持っていたのと、事前にホストマザーと連絡を取り合っていたこともあり、とても楽しい気持ちでいっぱいでした。

空港へ着き、ホストマザーに会えた時は本当に喜びでいっぱい、ホストマザーとハグしました。それで緊張や不安がほぐれ、家へ向かう車の中で色々なことを話しました。最初は、英語を話すことに慣れていなかったため言いたい事がうまく伝わらない事が多かったです。しかし、ホストマザー、ファザーはいつもなんとか理解しようとしてくれたり、丁寧にゆっくり話してくれたりしたため、安心して工夫しながら言いたいことを言ってみたりと、挑戦を繰り返しながら積極的なコミュニケーションをとりました。

私のホストファミリーは、小さな男の子がいる3人家族で、ホストマザーとは好みや考え方が似ていることもあり、短い期間の中も本当に様々なことを話しました。すると、そんな楽しい会話の中で、英語で会話をする楽しさにより気づき、少しずつ自信がついてきて、英語を話すことを怖がったりするような気持ちはなくなっていました。そこで、言語や文化の違いがあっても、「伝えようとする気持ち」や「理解しようとする・受け止めようとする気持ち」が大事だということ、会話をする上で、積極的な姿勢や気持ちが英語の文法や決まりなどにこだわることよりも大切だということを、あらためて感じることができました。これからもどんどん挑戦して英語を話すようにして、様々なことを学び、考え方を広げていきたいと思いました。

その一方で、ホストファザーとはクッキング、ホストマザーとはビーチ、4歳の男の子とはゲームなどと、このように会話が少ない中でも同じことを同じ気持ちで心から楽しむことができました。国が違い、言葉があまり通じなかったとしても、お互いにリアクションをとったりジェスチャーを使ったりして、仲良くなることができると思いました。

今回の訪問で、アメリカの良さや日本との違いをいくつも見つけました。

アメリカでは、日常で出会ったいろんな人と日本より積極的に会話をしていました。そんなフレンドリーさに驚き、とても良いなと感じました。また、周りを気にしがちな日本人とは違い、アメリカの人たちは正直に自分の気持ちや考えを話すようにしていて、わかりやすくいいなと思いました。そして、アメリカでは自由や個性を大切にしていることが多く、「ありのまま」で自分らしく過ごしやすい環境だなと思いました。景色については、クリアウォーター市には長野のような美しい山はありませんが、感動する綺麗なビーチがありました。自然の豊かさは似ていますが、そうした風景や生息している生き物が違い、それぞれの市の良さがわかりました。今自分が住んでいる長野市が大好きですが、今回訪問したクリアウォーター市も大好きです。第二の家族であるホストファミリーにいつか必ず会いに行きたいと思います。また、もっと世界の様々な文化を知り、関わっていききたいです。そして今回の多くの学びと大切な経験を忘れず、今後の人生に生かしていきたいです。

今回の訪問に関わってくださった長野市の職員の方々や先生方、メンバーのみんなには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました!!



私は、今回のアメリカ訪問を通して、多くのことを経験し学びました。

アメリカへ行くという実感が、出発式を行うまではありませんでした。当日の出発式で、姉妹都市学生団と関わりのあるたくさんの人たちが私たちを見送りに来てくださったことに驚き、同時に「本当にアメリカに行くんだ」という実感が湧いてきました。その後、新幹線、モノレールと乗り継ぎ、羽田空港へと行き、約12時間の空の旅を経てデトロイトへ着きました。そこからは、今までに経験したことのない多くのことが待っていました。特に心に残ったことが6つあります。



1つ目は、デトロイト空港のトイレでのことです。私は自動式の水道で手を洗おうとしたのですが、水が全然出てこなくて困っていました。その時、見知らぬ人が私に近づいて来て、やり方を教えてくれたのです。日本では見知らぬ人に声をかけてわざわざ教えてくれるといった場面をあまり見たことがなかったので、アメリカの人のフレンドリーさに早速驚きました。

2つ目は、ホストファミリーが空港で私たちを盛大に迎えてくれたことです。遅い時間だったにも関わらず、日本語で書かれた手作りの案内板を持ち、自分を見つけて話しかけてきてくれたことは、とても嬉しかったです。

3つ目は、野生のクジャクを見たことです。私のホストファミリーの家は、クリアウォーター市の学校から車で1時間以上もかかる場所でした。車で移動している間、車窓からは見たこともない景色が目の前に広がり、退屈しませんでした。私が野生のクジャクを見て驚いているとホストファーザーが「クジャクは食べても美味しくないので増えてしまう。」と言い、そんなに貴重ではないことに驚きました。

4つ目は、学校の食堂では残した給食をそのままごみ箱に捨てるという習慣があるということです。学校ではたくさん楽しいことがありましたが、これが一番驚きました。この習慣のせいで、食堂のごみ箱は食べ物だらけでした。

5つ目は、ホストファミリーと過ごした週末の2日間と最後の夜です。1日目は、ユニバーサル・オーランドへ行きました。その日は気温が高く、疲れてきたときにホストファーザーに休憩してもいいかと尋ねると「2分だけね。」と言われ辛かったですが、もう一踏ん張りどと気合を入れ直しました。非常に忙しい1日でしたが、日本よりずっとと広く迫力あるものばかりでとても楽しく、たくさんの乗り物に乗り、写真を撮たくさん撮りました。次の日はクリアウォータービーチへ行きました。泳ぐ気満々でしたが、水温が低すぎてあまり入れませんでした。しかし、みんなで一緒に砂遊びをしたことが楽しかったです。透明な水と白い砂浜に感動し、思わず砂を少し持ち帰ってきました。ホストファミリーとの最後の夜は、悔いが残らないようたくさん話しをしました。そして、一緒にけん玉やゲームなどをして、楽しく過ごしました。

6つ目は、ロサンゼルス観光です。よくテレビで見るハリウッドサインや、有名人の手形やサインのあるチャイニーズシアター前に行きました。クリアウォーター市とは全く違い、車が渋滞していたり、信号無視する人が多いいたり、治安がとても悪く感じました。

帰りの飛行機の中では、ホストファミリーともっと話したり遊んだりしたかったと、とても寂しい気持ち

ちでした。機会があれば、いつか会いに行きたいと思います。アメリカでの 10 日間は本当に一瞬でしたが、たくさんの経験をすることができました。クリアウォーターは自然豊かで、最高の場所でした。長野市に住んでいたから行く機会に恵まれ、風景、文化、食の違いなど、多くのことを学ぶことができました。アメリカで出会った人達との関係を繋ぎ、大切にしていきたいと思います。そしてこの旅での貴重な経験を、将来に役立てていきたいです。このような機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。

7 後輩へのアドバイス

柳町中学校 柳澤 七音

初めに姉妹都市交換学生団に選ばれた皆さん、おめでとうございます！

渡航前は不安もあるかもしれませんが旅はあつという間なので楽しみましょう！

これからいくつかアドバイスを書いていきます。参考になれば幸いです。

1. お土産

ホストファミリーや向こうで仲良くなった子に渡すお土産は日本特有のもの、日本を連想させるものが好ましいです。僕は、お箸・お菓子類・記念切手を持っていきました。お菓子は抹茶味が特に喜ばれました。(キットカットやポッキーの抹茶味など)

2. コミュニケーション

コミュニケーションに関してはあまり無理をする必要はありませんが自分ができる範囲で積極的に会話をしましょう。せっかくの訪問なので簡単な会話からでも挑戦してみましょう。最低限「Yes」,「No」や感謝の言葉はすぐに言えるようにしておいたほうが良いです。

3. 食事

とにかく量が多い場合がほとんどです。気を付けましょう。しかしおいしいものもたくさんあるので食を堪能しましょう。食事中的会話も怠ってはいけません。食事中的会話は仲を深める 1 つのキーです。積極的に会話に挑戦しましょう。

最後に訪問が終わるのはあつという間です。この訪問でしか体験できない事がたくさんあるので一緒に行く仲間も含めて現地の人もたくさん話して交流を深めましょう。

全力で、後悔のないようにとにかく楽しんできてください！

川中島中学校 坂口 実季

姉妹都市交換学生団として、選ばれた皆さん、おめでとうございます！

ここでは、意外と忘れがちだけど、持っていくと役に立った物を3つ紹介します。

① ウェットシート

ハンバーガー、ドーナツ、フライドチキン…アメリカは、とにかく手づかみで食べる料理が多いです。そのため、食べる前や後に手を洗いたくなる時がたくさんあります。でも、すぐそばに水があることなんて少ないです。そんな時に重宝するのが『ウェットシート』。財布やパスポートと一緒にカバンに入れておきましょう。ちなみに、外国のトイレは石鹸がないところも多いので、トイレ後に手拭き用としても使えます!!

② 保湿セット

アメリカは日本に比べてとっても乾燥しています。特に飛行機の中やホテルはカラカラです…乾燥していると、肌が乾燥したり、喉が痛くなったりして、アメリカ生活が豊かになりません。そこで、『ハンドクリーム』『のどアメ』『保湿マスク』など、乾燥を防げる物を持っていきましょう。

③ カードゲーム

空港や新幹線では、空き時間が意外とあります。そんな時におすすめなのが、『カードゲーム』！トランプやウノなど、なにかしら持ち歩いているとよいでしょう。また、花札や百人一首など日本の物はホストファミリーと盛り上がることもできるので、おすすめです。

これらの物を持っていき、最高に楽しい生活をしてきてください！

今回、姉妹都市交換学生団の一員として選ばれたみなさんおめでとうございます。

アメリカに行くうえで、大きな期待と不安を抱えていることでしょう。渡航前に少しでも皆さんの力になれるようなアドバイスをしたいと思います。

参考にして貰えたら嬉しいです。

○お土産

ホストファミリーに抹茶のお菓子や簡単にお湯だけで作れる味噌汁やうどんを渡しました。お好み焼きといった、日本食を作ってあげるのもいいと思います。学校訪問の際にも生徒の皆さんにお菓子を渡すと喜ばれます。配りやすいように個包装になっていて、たくさん入っているお菓子が良いと思います。

○カメラ

思い出を残すためにいっぱい写真を撮りましょう!!デジカメよりもスマホを持って行った方が便利だと思います。モバイルバッテリーも持って行った方が良いです。充電が無くなりそうな場面が何かと多い印象だったので持っていれば大変便利です。

○会話

英語を上手く喋れるか不安な人！私も不安でした。けれど日常的な会話は簡単なもので大丈夫です。ジェスチャーや英単語だけでも案外伝わります。積極的に喋ることが大事だと思います。本当に困ったら翻訳アプリがあります（なるべくなら頼らず頑張ろう！）

○デビットカード（15歳以上なら）

アメリカはキャッシュレス化が進んでいるところが多く、現金を使うことが出来ないお店もありました。デビットカードを持っていける人は持って行った方が便利だと思います。おつりも無いし、いくら出したら良いのか戸惑うことも無いので楽だと思います。

（ただし紛失や盗難には気を付けよう）

○暇つぶし

飛行機での長時間の移動となるので音楽や動画、映画を見たり聴いたりして暇を潰しましょう。機内は電波を発しない状態にしなければいけないため、渡航前にあらかじめオフラインでも利用できるようにダウンロードしておきましょう。

○日本へのお土産

家族や友人にお土産を買っていくと思いますが、商品の数も多くあるので事前に何が売られているのか調べてから買うのが良いと思います。アメリカでしか買うことが出来ない物や、日本では見たことの無いものを買うのがおすすめです。思い出に残るものを買きましょう！

見るものすべてが新鮮で本当に楽しい旅になると思います。長野市を代表して、アメリカを目一杯感じてきてください！ 行ってらっしゃい!!

姉妹都市交換学生団に選ばれた皆さん、本当におめでとうございます。

私からいくつかアドバイスをしたいと思います。

1 持ち物

飛行機内では長時間乗っているため、首が痛くなることがあります。首枕を持っていくいいと思います。

2 お土産

ホストファミリーにお餅、揚げ餅、抹茶ケーキ、お菓子などを持ってきました。学校で配られたプレゼントは、桜のシール、富士山のような扇形とゼリー菓子でした。

3 連絡先情報について

学校を訪問する時、皆さんから連絡先を聞かれることがあります。連絡先「メールアドレス、LINE QRコード、Instagram」を1枚の紙にまとめるといいと思います。

4 外国人向け

アメリカビザの申請に関しては米国大使のウェブサイトに登録し、面接します。面接では英語と日本語を選択することができます。自分で登録するのはとても簡単なので仲介会社を通す必要はないと思います。比較的簡単なので安心してください。

在留カードを絶対忘れずに持参し、日本を出国する際にはいくつかの書類に記入する必要があります。最後に、10日もあっという間に過ぎていきます。一日一日を大切にしてくださいね。

Let's create memories you will never forget

渡航が決まった皆さん、おめでとうございます！

これからアメリカに行く皆さんに私から訪問に向けてアドバイスしたいと思います。

○お土産

お土産はいろんな人に渡す機会があるので、多めに持っていくべきです。私はホストチューデントに、ポッキーを頼まれていましたが、鬼滅の刃のグッズもあげたらポッキーよりも喜んでくれました（笑）学校では、たくさんお菓子を配り歩きます。折り紙も持っておくと、配るお菓子がなくなったときに役立ちます。

○写真

アメリカの人たちは写真が大好きです。アルバムに家族や友達の写真など入れて持って行くと、楽しそうに見てくれて会話も弾みました。

○小分けの袋

買ったものや、ちょっと入れておきたい物があるとき、小分けの袋があると便利です。

○観光先

行きたいところがあればホストファミリーに希望を伝えたほうがいいと思いますが、急に予定が変更になることもあるので過度な期待をしないほうがいいです。

○買い物

欲しいと思ったものは、その場で買うべき！戻って買い物することができません。

不安を感じることがあるかもしれませんが、何より楽しむことが1番です。

9日間はあっという間です！一日一日をおもいきり楽しんでください！！

渡航が決まった皆さんおめでとうございます！訪米に向けて楽しみなこと、不安に思うこと、たくさんあると思います。私からいくつかアドバイスをさせてください。

◎英語…よく使った英語は Thank you for~, I 'd like to~, yes/no/ok, I like~などです。すらすらと話せなくても大丈夫。アメリカの人たちはとても親切なので、助けてくれます。笑顔ではっきり話そう！という気持ちを持つことが大事です。

◎食べ物…食べるもの飲むもの全て量が多く、味が濃いです。胃薬は絶対に持って行ったほうが良いと思います。また、日本食が恋しくなるので、材料を持って行き振舞ってあげるとホストファミリーも喜んでくれるのでおすすめ。私はお好み焼きとみそ汁を作って一緒に食べました。

◎スマホ：スマホは写真を撮ったり、翻訳したりとかなり便利です。使いすぎには気をつけて上手に活用してください。スマホ三大気を付けることは充電・ギガ・ストレージ。私は充電がなくて撮れなかった写真がたくさんあります。モバイルバッテリーは必ず持ち歩きましょう。

◎お土産：抹茶のお菓子とアニメグッズはとても喜ばれます。私はスーツケースに入るだけ持っていきました。

10 日間はあっという間に終わってしまいます。見たもの聞いたもの食べたもの一つ一つを目に焼き付けておきましょう。10 日間の旅、仲間たちと思いつき楽しんできてください。

まずは、長野市姉妹都市派遣事業への参加が決まった皆さん、おめでとうございます！

きっと楽しい気持ちと同じくらい不安な気持ちが大きいと思います。私も行く前は不安でいっぱいでしたが、楽しい思い出をたくさん作り、貴重な経験をすることができました。より皆さんが楽しい思い出を作れるようにアドバイスをしたいと思うので参考になると嬉しいです。

○日本のお菓子やお土産

アメリカの子供達は日本のアニメなどが好きな子が多いため、お土産はアニメやキャラクターの物がいいと思います。私は、ホストファミリーの姉妹にサンリオの物を渡すととても喜ばれました。また、お菓子は日本らしくなるべくアメリカには売っていないものがいいと思います。甘いお菓子だけでなく、辛いお菓子も喜ばれました。

○虫よけスプレー、虫さされ薬

蚊にさされることが何回かあったので、持っていった方がいいです！

○スマホの充電器

休みの日に一日中出かける日もあると思うので、沢山写真を撮るためにも持っていくと便利だと思います。

○笑顔

アメリカの人はフレンドリーなので、意識しなくても自然に楽しく笑顔で話すことができると思います。心掛けるとさらにいいと思います。

最後に、10 日間は本当にあっという間なのでとにかく楽しんできてください！！

姉妹都市交換学生団の団員に選ばれた皆さん、おめでとうございます！！少しでも不安をなくして思いっきり楽しみ、充実した時間を過ごしてもらえるように、ぜひよかったらアドバイスを読んで参考にしてください。

○コミュニケーション

とにかくどんどん積極的にコミュニケーションをとってほしいです！最初は慣れていなくて緊張するかもしれませんが、余計な事とか考えたり、怖がったりせずに、単語だけでも良いので自分の言いたい事を言ってみてください。ジェスチャーとかで工夫しながら、「伝えよう」とすればきっと伝わります！仲良くなるコツは、笑顔でたくさん会話をすることです。

○日本のお土産

ホストファミリーへのお土産は、家族のようす(家族構成など)を考えて選んで渡した方がいいです。例えば私のホストファミリーは、子供は小さな男の子一人だったので、簡単に遊べる日本のおもちゃを渡したら喜んで遊んでくれました。学校では、一瞬でたくさんのおかしがなくなりました(日本のお菓子大人気！！)多めに持って行ったほうが good！

○お別れの手紙

私は、ホストファミリーとのお別れの前日の夜に、一人一人に手紙を書いて、お別れの時に渡しました。レターセットか、折り紙などを持って行ったほうがいいです。手紙は感謝の気持ちをしっかり伝えられるのでおすすめです。とても喜ばれました。

姉妹都市交換学生団に選ばれた皆さん、おめでとうございます。 私が経験したことを元に、いくつかアドバイスをしたいと思います。

1. 食事について

おいしい食べ物があると思えば、想像を絶するような不味い食べ物もあります。特にお菓子です。学校でたくさんのジャンクフードをもらうので、欲しくない物ははっきりと「いらない。」と言わないと、すごい数になります。日本食が恋しくなった時は、ホストファミリーと話し、日本食料理店に行けば良いと思います。

2. お土産

私は、柿の種やガム・グミ等、自分がお勧めのお菓子を持っていったら喜ばれました。また、けん玉が得意なこともあり、プレゼントとしても持参したところとても喜ばれ、一緒に遊ぶことができました。お箸も喜ばれると思います。

3. コミュニケーションについて

アメリカの人は皆フレンドリーなので、会話が絶えません。道端で見知らぬ人に「How are you?」とか、レジのスタッフに「Are you having fun?」などと色々聞かれます。相槌でも良いので反応をしましょう。学校では、生徒は皆友達のように接してくれ、時に話すスピードが速く聞き取れないことがあると思います。その様な時は「Pardon?」などと聞き返すと良いでしょう。

最後に、毎日新しいことにぶつかるので、大変ではありますが、それ以上に楽しいことがあります。10 日間は一瞬です。1 日 1 日を大切に過ごし、それを記録するのを忘れずに、全力で楽しんでください！！

8 あとがき

第 37 回姉妹都市交換学生団員と関係者の皆様へ

学校教育課 丸山 拓磨

コロナウイルス感染症拡大に伴い中止されていた姉妹都市交換事業は、令和元年度以来であり、4 年ぶりの実施となりました。また、これまで長野市立中学校の中学 2 年生の代表者が訪問していましたが、今回は全市内から中学生を公募し、学年を問わず、志高い中学生 10 名を選抜し、訪問準備を進めました。様々な思いや願いを持った 10 名が、英会話練習や長野市の紹介プレゼンテーションづくり、ダンスや歌のパフォーマンス練習を通して、団結力を高め、思いを強くしてクリアウォーター市へ訪問できたことは、一人一人の現地での交流や貴重な経験、新たな発見と学びにつながったと確信しています。

学校訪問は、2 日間という短い日程にも関わらず、想像以上に現地の教師や子どもたちが私たちを歓迎してくださり、充実した学校訪問が行えました。具体的には、実際に一緒に授業を受けさせてもらったり、昼食を取ったり、お土産を渡ししながら日本の紹介をしたりして、かけがえのない友情を築くことができました。最終日には涙を流しながら再会を誓う姿も見受けられ、この交流の意義を深く感じることができました。

サヨナラパーティーでは、長野市を代表する生徒として、事前に準備した内容を堂々と発表し、会場の反応を見ながら発表方法をアレンジし、パフォーマンスを加えるなどして会場を盛り上げていました。また、ホストファミリーの方々からは、「楽しみながら長野市を学べた」「早く長野に行きたい」「日本の中学生のプレゼンテーション能力はアメリカよりレベルが高い」など、高い評価と嬉しい感想をたくさんいただきました。

中学生の休日の過ごし方は、それぞれのホストファミリーによって違った体験をさせていただいたようでした。ゴルフやカヌー体験を通して自然と触れ合ったり、クリアウォータービーチでイルカと出会い、夕日を鑑賞したりするなど、長野市では決してできない貴重な体験をさせていただき、素晴らしい思い出を作ることができたようです。

10 日間という短い期間でしたが、中学生 10 人全員が「またクリアウォーター市に訪れたい」「今後でも出会った方々と交流を深めたい」「広い世界で活躍したい」と思える旅行になりました。このような気持ちをこれからも持ち続けることで、今後も国際的視野を広げ、多文化共生や国際理解の精神を養い、これからの時代を担うふさわしい人材に成長してほしいと願っております。

最後になりますが、10 名の生徒をまとめてくださった海沼リーダー、様々なことに配慮しながら安全に行程を進めてくださったアルピコ長野トラベルの渡辺様、また、現地で素晴らしい体験を企画してくださった Amber さんや James さんに、心から感謝申し上げます。この交流が、今後も長野市の子どもたちの未来を拓き、長野市の発展につながることを願い、あとがきとさせていただきます。本当にありがとうございました。